

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム らくや		
所在地	宇部市浜町2丁目1-3		
電話番号	0836-37-2512	事業所番号	3570201172
法人名	医療法人 博愛会		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 22 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人 非常勤 1 人 (常勤換算 13 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 36,750 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食	315 円	昼食 630 円
	夕食	630 円	おやつ 0 円
その他の費用	月額 13,650 円		
	内訳 光熱水費、日用品費		

(4) 利用者の概要 (7月10日現在)

利用者数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
	要介護1	4	要介護4 2
	要介護2	8	要介護5 1
	要介護3	3	要支援2 0
年齢	平均 85.05 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 宇部記念病院 小野田心和園(精)
	歯科 宇部記念病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

法人代表はじめ管理者の職員を育てることへの熱い思いから、新人研修や段階的な職場研修、研究発表、資格取得の推奨などが行われています。年々職員が人間的に成長し、ケアの質の向上に繋がっており、利用者は明るく職員間のコミュニケーションも良く取れています。居室はドアのデザインを替えるなどして表示はなく、共用空間もすっきりと落ち着いた家庭的な雰囲気を保っています。運営推進会議には、全家族に案内を出し、希望者は何人でも参加可能として、多い時には5家族)、家族と協働でのホーム作りがされています。

(特徴的な取組等)

利用者との馴染みの関係作りとして、入所前に半日の通いが1週間、1日の通いが1週間、宿泊を3週目に誘うなど、熱意を持って行っています。事故防止に関しては、法人のリスクマネジメント活動が機能し、ヒヤリはっとの事例集を作成し、年1回見直しをしています。重複のヒヤリはっとならば分析、検討をし、その結果、事故が減少するなど成果が出ています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

本部で話し合いをし、全員がミーティングで検討しています。第三者委員は近く決まる予定、ホーム独自の広報誌については、検討し試案を作成しましたが、しばらくは諸事情により法人広報誌の中で対応することとしています。

(今回の自己評価の取組状況)

地域密着型サービスや評価の意義について理解し、全職員で取り組み、1年の振り返りの場として捉え、サービスの質の向上に活かしています。

(運営推進会議の取組状況)

定期的開催し、メンバーは自治会連合会会長、市介護保険課職員、介護相談員、利用者、家族、職員で、状況報告、委員会報告、評価の報告などで、活発な意見交換が行われています。

(家族との連携状況)

法人全施設のホーム便り(ホームは3ヶ月に1回)と毎月の請求書に個別便りを添えて送付しています。面会の家族には、日々の様子を伝え、意見や要望を聞き取っています。また年4回行事に合わせた家族の集いでは、アンケートをとったり、話し合いの中でコミュニケーションを取り合っています。

(地域との連携状況)

法人の6施設が自治会の班として加入しており、総会や班長会議に職員が出席し、利用者は夏祭りや敬老会などの地域行事に参加して、住民との交流を深めています。また毎日の散歩での挨拶や商店との馴染みの関係も出ています。近くの幼稚園児が散歩で苑内を通り、その出会いが利用者の楽しみの一つとなっています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「お互い助け合って、いつも笑顔で、楽しい我が家」というホーム独自の理念を全員で作り、その一つ一つを具体的に検討して、地域の方々と共に支え合い、その人らしく生活できるよう支援している。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングで理念について話し合い、毎日理念の唱和をし、具体的な実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、ホームは一つの班として総会や班長会議に参加している。地域行事の夏祭りや敬老会に参加し、買い物や散歩などでは気軽に挨拶を交わしている。小学生の訪問や幼稚園児の散歩での交流もある。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義や重要性を理解しており、ホームの質の向上を目指して全員で取り組み、外部評価の結果についても具体的な改善に努めている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>定期的に開催しており、メンバーは自治会連合会会長、市介護保険課職員、介護相談員、家族で暮らしぶりや外部評価の報告をし、質疑や意見交換を行っている。</p>	<p>・地域住民メンバーの拡大</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市とは制度上の変更の問い合わせや課題の相談など、ホームから出かけることが多く、助言指導を受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	広報誌や請求書と共に、毎月個別の便りに暮らしぶりや健康状態を記入して送付している。面会時や年4回の家族参加行事の後職員と自由に話し合う機会を持ち、報告したり意見、要望を聞いている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時の声かけや家族アンケート、家族の集いなどで出た意見や要望などを運営に反映させている。相談苦情の窓口は、受け付け担当者、解決責任者、外部機関、手順を明記し意見箱も設置している。第三者委員については検討の結果近く決定の予定である。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤13名、非常勤1名の勤務体制で、行事や急な休みでは、職員間で話し合い調整しながら柔軟に対応をしている。夜勤は各ユニットごとに専任1名を配置している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人の方針で、異動は最小限に抑える努力をしている。やむなく異動のある場合は、ダメージを少なくするよう検討、工夫している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での新人研修や段階に応じた業務研修、外部研修など計画的に受講し、ミーティングや会議で伝達講習を行っている。また、資格取得も推奨し、介護福祉士4名、社会福祉士1名を取得している。各ユニット2名のリーダーを置き、働きながらのトレーニングを実施している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	全国グループホーム協会や県宅老所・グループホーム連絡会の研修会や交流会、相互訪問など年4回3～4人ずつ参加している。見学や交流を通じ、サービスの質の向上が図られている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族と検討しながら、見学や通所、体験入所など時間を掛けて馴染みの関係作りを行っている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理を一緒にする人、盛り付けを任された人、それぞれに楽しみながらの様子が伺え、学びあい支え合う関係作りが自然に築かれている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人ひとりの思いや意向を尊重し、利用者の何気ない言葉や咳きを記録して職員で共有している。把握が困難な場合は家族からの情報や、表情や動作から汲み取るようにしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスを月1回開催し(1時間30分 5人)、アセスメントをセンター方式に変更して、本人や家族、関係者の意見も含めて検討している。それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画案を家族に提示し、話し合ってから作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的には6ヵ月毎の見直しであるが、変化のある場合は随時関係者と話し合い新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院の送迎や付き添い、理美容院の送迎、外食や買い物の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を聞き医療機関を決めており、通院方法や情報交換についても話し合っており、適切な医療が受けられるよう支援している。殆どの利用者がかかりつけ医を希望しており、医療機関と良好な関係を築いている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	指針を定め、早い時期に家族と話し合い、同意書の提出もある。重度化した場合は、家族、主治医、医療連携による看護師、母体施設と連携を取り、くり返し話し合いながら全員で共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人の接遇トレーニングでプライバシーに関する言葉遣いや対応等学ぶと共に、ミーティングで言葉かけやケアに関する注意を喚起している。記録類は事務室の保管庫で管理している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを知る仕組みとして「生活ペース」を作り、一人ひとりの意向に応じ職員の業務内容を変更している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理、本人の嗜好や体調に考慮しながら献立を立て、買い物、調理、配膳、片付けを力量に応じて一緒に行っている。食事は全員でゆったりと楽しめるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴時間や回数は利用者が選択でき、ゆず風呂、花風呂、薬風呂など嗜好を凝らし楽しめるようにしている。職員と一緒に入ったり、また入浴を嫌がる人には清拭等でも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴を基に、張り合いや楽しみごとの園芸や散歩、大正琴など、また調理や後片付け、掃除、洗濯物たたみ等活躍できる場面づくりを支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、お寺参り、ドライブ、季節毎のお花見など、一人ひとりの希望にそってできるだけ多くの外出の支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会活動や研修で、職員は正しく理解し抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は施錠の弊害を理解しており、見守り職員を決め鍵を掛けないケアに取り組んでいる。外出者のあった場合、状況、経過、時間を記録して検討している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、年2回の法人の研修会で事故防止について学び、ヒヤリはっとや事故事例集を作成して、毎年見直しをしながら取り組んでいる。高頻度の事例はリスクマネジメント委員会に報告して、改善策を検討している。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	法人内で年3回の救急蘇生訓練や、応急手当の訓練に参加し、技術の向上に努めている。緊急時の対応マニュアルに基づき主治医や協力医療機関との連携、隣接の法人施設に応援要請をしている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回夜間を想定した避難・消火・通報訓練を実施し、対応マニュアルに沿ったイメージトレーニングを行っている。地域の消防隊への依頼や、台風など予測できる場合備蓄もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人記録に薬の説明書がファイルされ、職員は理解しており、服薬は手渡しして確認している。症状の変化に配慮しながら必要時医師に報告している。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後口腔ケアを実施し、個別の力量により声かけや介助、歯ブラシや義歯の消毒保管の支援を行っている。月1回は全員の歯ブラシの点検を実施している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状況に合わせ献立や補食、食事形態を検討し、摂取量を記録している。カロリーやバランスについては、法人の管理栄養士に指導を受け、大まかに把握している。水分摂取量は必要な人のみ記録をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを基に、手洗い、うがい、消毒等を実施している。マニュアルは委員会で見直しをしながら、年2回法人の行う項目毎の研修を受けて意識強化している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は広く明るく、周囲には掲示物はなく、すっきりとした雰囲気、季節の花が活けられ、お話しする人、調理の手伝い、配膳する人、それぞれに自由な姿が見られた。中庭にはウッドデッキがあり、鉢植えの花が季節感を感じさせる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	和風の居室で馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、落ち着いた雰囲気である。部屋には縁側があり、デッキや花壇が眺められるよう工夫がされている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム らくや
所在地	〒755-0065 宇部市浜町2丁目1番3
電話番号	0836-37-2512
開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日

【サービスの特徴】

法人理念、方針を基盤として「お互い助け合って、いつも笑顔で、楽しい我が家」をらくやの理念として日々の生活作りに努めています。

“お互い助け合う”は、ご入居者と私達・ご入居者同士・ご家族・地域の方々や行政・他職種の方々とも理解しあい助け合える関係を築き、支え合いを目指しています。

“いつも笑顔で”は誰でも日々生きていく為には、つらい事、悲しい事等さまざまな状況を克服する過程が必要であり、そんな時、そっと寄り添い少しでも分かち合える関係作りを心がけ、どなたにとっても実家の次に寛げる“楽しい我が家”の様な場所になりたい願いを表しています。

らくやの家の周りには、季節ごとの植栽、昔ながらの和風家屋、お一人毎の生活を楽しくて頂ける居室環境となっており、お気持ちを尊重し、その方らしい時の流れを守り、安心して穏やかな生活を送って頂くお手伝いを心がけています。

ご入居者には、もちろん、ご家族・ご友人にも、いつもいたい家、一緒に過ごしたい家族として又、地域の方々には、ちよくちよく立ち寄りしたい隣家として、心のよりどころにして頂ければと思います。

これからの人生をもっと素敵に・・・そして楽に楽しく生きて頂く為に努力致します。

【実施ユニットの概要】 (6月1日現在)

ユニットの名称	らくや 1階					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの利用者数	9 名		男性	2 名	女性	7 名
	要介護 1	1	要介護 4	1		
	要介護 2	5	要介護 5	1		
	要介護 3	1	要支援 2			
年齢構成	平均	84.4 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	ユニットリーダーがとりまとめを行いながら、一項目ずつ全職員と検討・確認を行い記述した後に、理事長・本部長と検討後、最終確定と致しました。
評価確定日	平成 20 年 6 月 10 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	<u>○地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人全体の運営方針・理念を基に、開居時、職員全員で、独自の理念を作り、現在もその理念のもと、職務をする様務めています。	
2 (2)	<u>○理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング時毎や、1日1回勤務者で法人理念・基本方針・ホームの理念を唱和し、それに基づいたケアに取り組むよう努めています。	○ 理念を基に、年間毎の目標やユニット毎又は、個人毎での目標を持つ等、更に実践につながる取り組みを検討できればと思います。
3	<u>○運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	運営上の方針・目的を明確にし、啓示をしている事で、職員一人一人が、ホームの意義や役割について理解し、ケアに反映できるようにと考えてます。	
4	<u>○運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	夕礼や研修等での代表者からの指導を通し、理念や想いを管理者はじめ全職員が十分に理解しており、それを踏まえたサービス提供となる様、取り組んでいます。	
5	<u>○家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の方とも“お互い助け合える”関係を築く為に、いつでも、どこでも、お手伝いの声かけが行える様、心がけてます。立ち寄り先での暖かいふれあいに支えられています。	
2. 地域との支えあい			
6	<u>○隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	ご近所の方、散歩道上の方との挨拶や行きつけのスーパー、商店の方々とも良いお付き合いをして頂いています。又、ご自宅近くの地域の方々やご友人の訪問等、継続的な交流への働きかけを行っています。	
7 (3)	<u>○地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会へ加入しており、自治会の行事にお誘い頂く事も増えています。入居者の状況に応じ、参加する様心がけています。	
8	<u>○事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	受診先での待ち時間に地域の方々も安心して診療を受けて頂ける様、共に過ごしたり、買物や外出先で困っておられる方のお手伝いをさせて頂く等、入居者の方とともに、ほんの少しでも、役に立てる場面をと考えています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
10 (5)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	○	多面的にご意見が頂け、更に活気ある、会議になる様な取り組みを検討していきたいと思っています。
11 (6)	<p>○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
12	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>		
13	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
15	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16 (7)	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	ご入居者を含め、交流活動等、機会づくりができればと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の健康を保つことが、質の高いケアへ繋がると考えます。体調面の把握に努め、ミーティングや親睦会を通し気持ちを共有しストレスを重ねない様努めています。	○	運営者は、職員の身体・精神的な負担を理解しており、今年度より1名増員でより働きやすい環境作りに取り組んでいます。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格取得等、自己研鑽に対し理解をし、必要のある情報提供・助言を行い、各自の向上心の継続を図れる様努めています。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	運営者だけの偏った評価にならないよう、職員間での相互評価を行っており、適切な評価となるよう努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご相談時より、ご本人・ご家族からしっかりと傾聴させて頂き、ご入居まで、気軽に立ち寄って頂いたり、必要に応じ他職種の方との連携を図っています。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	初めて来居される時には、色々な思いが入り混じり、不安等抱え込まれたりしている事を充分理解し傾聴、受容を通し気持ちを癒して頂ける様努めています。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時の内容を理解し必要に応じ他サービス担当への相談や利用を含め安心感を提供できる支援を心がけてます。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	過ごす時間を検討の上、通って頂き、なじみの関係作りをし生活に入った方や、ご家族に宿泊頂き関係作りをした事項があります。必要に応じ、ご本人・ご家族と検討し取り組みます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	助けて頂いたり、教えて頂く事に感謝を伝えながら、生活作りを行う場面が増えてます。又、ご入居者同士が助け合われたり、相談しあう場面もあり、素敵な絆が築けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>		
35	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	アセスメントツールをセンター方式へ移行後、ご本人・ご家族やその他関係者からの意見も含め検討することで目標が明確となり、それに基づいたケアが行えるよう努めています。	
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の気付き等は、職員間で話し合える環境です。体調変化等状態が変わった時は、再検討を行い期間内であっても随時見直しを行っています。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は、ご本人の状態・対応方法・アセスメントも含め記載しており、情報は常に共有できていると考えます。介護計画の見直しの他、常に記録を活かせるよう努めています。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	現在、該当する事項はありませんが、ご本人やご家族の状況や要望に応じ、法人内の各職種にも協力を受けながら、柔軟な援助が行える様にと考えております。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察・消防には定期的に訪問頂き、ホームの状況を報告させて頂いています。ボランティアや教育機関等との交流もご入居の方の状況を把握、検討行いながら協力を頂いています。	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ご入所者の生活を乱さない様、配慮を行いながら、人数、時間帯、内容について検討を行った上で、受け入れを行っています。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在、該当する事項はありませんが、ご本人やご家族の要望や必要性に応じ、対応を行える様、検討に努めています。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、権利擁護事業を利用されている方もおられます。今後ともご本人やご家族の要望や必要性に応じて相談させていただきます。		
49 (19)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	歯科医療も含め、ご本人・ご家族の意向で医療機関は決めて頂いています。相談しやすい関係を大切に心がけ、体調変化時は早期の対応等気にかけて頂き良好な関係は築けていると考えます。		
50	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院に依頼しており、日常的にも相談しやすい環境です。又、かかりつけ医で確保されている方もおられ、指導や助言を頂いております。		
51	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による訪看との連携をはじめ、母体施設、受診先医療機関の看護職との関係は良好で、ご入居者にあつた対応や指導、助言を頂きながらホームでの支援へ繋げています。		
52	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	期間限定でホームへ復帰可能なシステムがあり、主治医、ご家族と検討の上対応しています。入院期間中の関わりも継続し病院関係者とも頻繁に連携する様努めています。		
53 (20)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	指針を定め、ご利用時より意向を伺うとともに、その時毎の状況に合わせ主治医も含め、検討をし、再確認をさせていただきます。		
54	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来る限り、穏やかで安楽な生活を送って頂ける様、環境整備を含め、予測できる事等、ご家族・主治医・看護職と随時検討、見直しを行いながら援助をと考えています。		
55	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居前に、ご家族へ生活状況等報告するとともに、転居先がある場合、書面での情報提供、ケアカンファレンスへの参加、訪問協力等退居の状況に応じ、少しでもダメージとまらない様な対応を心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ご入居者のプライバシーを保護し、プライドを保持して頂ける対応を状況に応じて行う様、個人情報の取り扱いの知識を持ち誓約書、接遇トレーニング等で確認しあえています。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご入居者が表現しやすい環境作りや聞き方、話し方も相手に合わせた対応に努めています。自己決定を出来る限り尊重できる様力を見極め、実現に繋がる援助を心がけてます。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	自然にできた役割分担を尊重し、出来る力を見極め、さりげなく参加を促す対応に努めています。して頂いた事には感謝を伝え、助け合える喜びを感じて頂ければと考えています。	
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向に応じて、生活ペースを作って頂き、ご希望等に対応できるよう努めたいと考え、それにそって職員の業務内容を変更しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご希望を伺いながら、季節・場所等に応じた身だしなみを心がけ愛用の化粧品やなじみの理美容院の利用を勧め、支援しています。表現の困難な方はご家族と相談し意向をくみとる様努めています。	
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節感・行事・風習等にそった献立や身体状況に応じた献立を考え、買物・調理は一場面でも参加頂ける工夫をし、食事中の環境も含め、ゆったり心地よい時間となる様サポートを行っています。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好に配慮をし、多種類の飲み物・おやつの提供に努めます。飲酒は、ご家族・主治医と相談しながら楽しんで頂いてます。喫煙者はおられません安全に楽しめる様検討します。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつ・パットについては多種類を準備し、時間・量・皮膚の状態を考慮し使い分け、必要な方へは排泄パターンを把握、誘導を尊厳保持に留意の上、排泄自立に向け支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間・回数等は定めず、ご希望に添って、健康面を把握し入浴頂いています。状態に応じ必要なお手伝いを、その方に合った声かけ・方法等配慮をしましめるよう心がけてます。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	記録等で日頃の状態を把握し、お1人毎の基本的な日常生活のリズムを崩さない様留意しながら、日毎の身体状況を考慮した上で、適宜、休息・安眠に努めています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を踏まえ、状態を考慮し、お1人毎の楽しみや生き生きとした表現を引出す様努めています。不安や悲しみの表現には寄り添いそっと支えになれるようにと考えます。		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族と相談しながら日常的な金銭管理されてる方もおられます。必要に応じお預かりする方の出納管理は、職員2名で確認し事故のない様努めています。		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買物・寺社への参拝・ドライブ・季節毎の外出行事をグループや個別にて企画・実施してます。その際にティータイムや外食を楽しんで頂いています。		
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別に尋ねたり、日々の会話の中から察したり、援助できる様努めます。又、ご希望の対応が難しい時には、ご家族や知人の方等の協力も頂いています。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、子機で自由に使用できる場所にあり、プライバシーを守るよう居室で利用頂いています。遠距離のご家族への連絡を勧めたり、ご家族から頂く様声かけを行ってます。		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は取り決めず、気軽に早朝やお仕事帰りに来られます。来居時はお茶等提供し、ゆっくりと過ごされる様心がけてます。他の方々との交流もして下さり、家庭的な雰囲気大切にしています。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	居室での宿泊も可能ですが、ゲストルームを準備しております。気軽にご利用頂ける様、寝具の用意や食事の提供もできるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践</p> <p>年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p>○再発防止への取り組み</p> <p>緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の訓練の実施、対応マニュアルに添ったイメージトレーニングを行っています。台風等予測できる災害は、臨時ミーティングにて検討を行っています。地区に消防隊もあり協力のお願いは行っています。	○	火災等、未然に防ぐ為の体制作り(環境面の定期検査と個室の防災用品の利用のお願い等)
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	事故発生時は、大小関わらず報告する様に心がけています。又、頻度が増強する場合は、ご本人・ご家族と共に検討を行います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日毎のバイタルチェック・必要時の再検・ADLや生活面でのわずかな変化でも気付ける様、記録して情報を共有し、対応が必要な場合は、早期にご本人・ご家族も含め検討しています。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人記録に処方の説明書をファイルし、内容を理解し支援しています。内服確認方法も個別で対応し、必要時には状況報告・相談を行い、その方にとって最適な与薬を心がけてます。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取量の把握・食事の工夫・散歩等の運動・腹部マッサージ等、薬に頼らない支援を心がけてます。必要に応じ排泄表の活用で把握に努めてます。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	各居室の洗面所、共有の洗面台は高さ調節で身体状況に合わせやすい設備を整えています。口腔ケアや用具の管理は個別の状態を見極め、それに応じできる力を損なわない支援となる様心がけてます。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立・使用食材は記録し把握に努め、個別の状況に合わせ献立の変更・補食・食事形態を検討した上で内容・摂取量は記録しています。1日の水分摂取量も必要に応じ対応してます。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、取り組めてます。委員会活動にて次時期にむけて検討し見直し各事項毎研修があり意識強化になっています。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防・衛生、安全マニュアルを遂行し定期的に点検をします。食材の購入は1日毎行い、期限は一覧で書き出し掲示する等し、全職員で意識徹底しています。	○	特に生鮮食品は賞味期限内であっても確認をした上で、使用するよう心がけてます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手作り表札・スロープ・植物類や、空間にベンチを置き円樂して頂く等親しみの湧く雰囲気作りに努めています。	○ ご近所の方々や散歩道上でお会いする方と良いお付き合いをさせて頂いており、安全への手助けも協力頂いています。
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	昔風の和風家屋・家庭用の家事・備品・季節感を楽しめる工夫もしています。その時々々の状況に応じ音や明るさの調節を行いながら、日中の生活音や五感で生活を感じて頂いています。今後もなじみやすい和やかな環境作りに努めます。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間等の空間も広く縁側のふちに腰を掛け新聞を見たり、窓から外を眺めたり、デッキへ出て談笑されたりと思ひ思いに過ごされています。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居時、又、ご本人やご家族と検討しながら使い慣れた家具、生活用品やご本人にとって大切な物を持ち込んで頂ける様にしています。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いに対しては、配慮しながら、原因除去、消臭の工夫し、感染症予防の観点からも換気は適宜行なっています。共有部には、温度・湿度計を設置管理、個室は好みも重視し健康を害されないよう留意しています。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	ホーム内バリアフリーで滑りにくい床材・手摺の設置・浴室の工夫・3サイズの食卓セット等、安全面に配慮し、アクティビティで無理のない機能回復・維持に努めています。必要に応じ個別での対応も行っています。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の配置・ドア・居室内の作りに特性を活かし、昔風の時計や暦は見やすい物を使用し、状況に応じ安心できるさりげない対応に努めています。	○ 認知症による誤認・錯覚等から混乱や失敗を招かない様、周囲の状況に意識をしています。
97	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭にはデッキがあり、ご自由に季節毎の花の植替え、野菜作り等楽しまれています。ベンチ・いす等の利用、物干しの高さ等安全面に留意をし、活用頂いています。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 <input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと <input checked="" type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 <input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 <input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム らくや
所在地	〒755-0065 宇部市浜町2丁目1番3
電話番号	0836-37-2512
開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (6月1日現在)

ユニットの名称	らくや 2階				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	9 名				
	男性 2 名		女性 7 名		
	要介護 1	3	要介護 4	1	
	要介護 2	3	要介護 5		
	要介護 3	2	要支援 2		
年齢構成	平均 85.7 歳	最低 77 歳	最高 95 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	ユニットリーダーがとりまとめを行いながら、一項目ずつ全職員と検討・確認を行い記述した後に、理事長・本部長と検討後、最終確定と致しました。
評価確定日	平成 20 年 6 月 10 日

【サービスの特徴】

法人理念、方針を基盤として「お互い助け合って、いつも笑顔で、楽しい我が家」をらくやの理念として日々の生活作りに努めています。

“お互い助け合う”は、ご入居者と私達・ご入居者同士・ご家族・地域の方々や行政・他職種の方々とも理解しあい助け合える関係を築き、支え合いを目指しています。

“いつも笑顔で”は誰でも日々生きていく為には、つらい事、悲しい事等さまざまな状況を克服する過程が必要であり、そんな時、そっと寄り添い少しでも分かり合える関係作りを心がけ、どなたにとっても実家の次に寛げる“楽しい我が家”の様な場所になりたい願いを表しています。

らくやの家の周りには、季節ごとの植栽、昔ながらの和風家屋、お一人毎の生活を楽しんで頂ける居室環境となっており、お気持ちを尊重し、その方らしい時の流れを守り、安心して穏やかな生活を送って頂くお手伝いを心がけています。

ご入居者には、もちろん、ご家族・ご友人にも、いつもいたい家、一緒に過ごしたい家族として又、地域の方々には、ちよくちよく立ち寄りたい隣家として、心のよりどころにして頂ければと思います。

これからの人生をもっと素敵に・・・そして楽に楽しく生きて頂く為に努力致します。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	理念を基に、年間毎の目標やユニット毎又は、個人毎での目標を持つ等、更に実践につながる取り組みを検討できればと思います。
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気候に声をかけ合ったり、気候に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	○ 事業所の方を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	現在までの評価から意義・重要性を職員全員が理解しており、記録業務や居室担当の体制、業務時間の変更等、ホームの生活の質の確保や向上を図る事を目的として、全職員で検討し取り組んでいます。	
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域の方々との連携を深め、ご入居者の充実した生活の確保を目指し開催しています。事故発生時のフローチャートでは、ご意見から討議頂き改善が行えてます。	○ 多面的にご意見が頂け、更に活気ある、会議になる様な取り組みを検討していきたいと思っています。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホーム運営上の問題、その他色々な相談等、常に快く受け入れて頂き助言、指導を頂いています。	
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	外部研修や市町での助言等で理解に努めています。現在、利用中の方もおられます。今後も、必要性のある方へは情報提供も含め支援をと考えてます。	
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会での活動や研修を通し職員個々が虐待防止についての知識を深めるよう努めています。特に心理的虐待については注意を払いたいと考えてます。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用希望時は、見学を勧め、ホームの説明やご入居者へ配慮をしながら雰囲気を感じ判断頂くよう努めています。契約に際しては資料を含め、丁寧な説明に心がけ円滑な生活支援に繋げてます。	
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	窓口の表示・公的窓口の紹介・介護相談員の訪問・ご意見箱・アンケートにて取り組んでおり、書式、フローチャートにそって改善策を検討し回答する様努めています。	
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	運営推進会議で定期的に行ったり、面会時や電話・手紙でその都度行っています。特に健康面や事故等の報告は、直ちに行う様努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	<p>ご入居者を含め、交流活動等、機会づくりができればと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>運営者は、職員の身体・精神的な負担を理解しており、今年度より1名増員でより働きやすい環境作りに取り組んでいます。</p>
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
<p>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		<p>必ず感謝の気持ちを伝え、共に支えながら、生活して頂ける喜びを感じて頂ける心がけています。一緒に生活していく中で豆知識を教えて頂いたり、花の活け方、おかずの盛り付け方など、全てにおいて学ぶことが出来、とてもよい関係が築けています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来居時や通信により、できる限り、お声かけをし、近況を報告したり、相談させて頂く事を継続してきた中で、ご家族に助け頂いて頂く・共に助け会える場面は増え、時に家族的な関係でご本人含めお付き合いさせて頂いています。		
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時間は定めず気軽に来居頂ける環境作り、宿泊も含め、ご家族にも、くつろいで頂ける所でありたいと思います。今までの関係性の把握をし、自然な雰囲気での配慮に努めています。		
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで大切にされてきた馴染みの人や場所との関係を大切にし、直接的又は間接的に支援し、出来る限り継続される様努めています。		
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お一人おひとりの個性等把握し、その時々々の状況や雰囲気を察知し、必要に応じて介入しています。気の合うお友達作りが出来るよう支援しています。		
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	季節毎の挨拶・訪問し合う・相談や紹介等ホームをなじみの場所として、お付き合い頂けてます。又、それが地域との関わりを深める事に繋がっていると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限りご希望に添える様心がけています。意思表示の少ない方に対しては職員より働きかけをし、会話の中よりさりげなくお聞きしたり、表情などからも伺える様、状況に応じた対応が出来るように努力しています。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族やご本人、又、知人等から、これまでの情報をプライバシーにも配慮しながらお聞きし、それらを参考に今後活かせる様努めています。		
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	お一人おひとりの暮らしの現状については、健康チェック表、生活記録等、必ず記録に残す様にしています。又、それらを参考に今後のケアに活かしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<p>○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時はもちろんの事、ご家族の来居時等に、ご本人、又はご家族の希望・要望をお聞きしています。センター方式を利用することにより、よりよいケアプランの作成、よりよいケアが出来る様心がけています。</p>	
42 (17)	<p>○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>状態変化時には、まずご家族へその状態を報告、話し合いをし、ミーティングで再検討、見直しを行っています。</p>	
43	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のちょっとした気付き等は職員皆で話し合える環境です。個別記録への記入や、生活日誌の連絡事項欄を利用して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<p>○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>現在、該当する事項はありませんが、ご本人やご家族の状況や要望に応じ、法人内の各職種にも協力を受けながら、柔軟な援助が行える様にと考えております。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<p>○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>警察・消防には定期的に訪問頂き、ホームの状況を報告させて頂いています。ボランティアや教育機関等との交流もご入居の方の状況を把握、検討を行いながら協力を頂いています。</p>	
46	<p>○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。</p>	<p>ご入所者の生活を乱さない様、配慮を行いながら、人数、時間帯、内容について検討を行った上で、受け入れを行っています。</p>	
47	<p>○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>現在、該当する事項はありませんが、ご本人やご家族の要望や必要性に応じ、対応を行える様、検討に努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>〇地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>現在、権利擁護事業を利用されている方もおられます。今後もご本人やご家族の要望や必要性に応じて相談させていただきたいと考えています。</p>	
49 (19)	<p>〇かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>歯科医療も含め、ご本人・ご家族の意向で医療機関は決めて頂いています。相談しやすい関係を大切に心がけ、体調変化時は早期の対応等気にかけて頂き良好な関係は築けていると考えます。</p>	
50	<p>〇認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力病院に依頼しており、日常的にも相談しやすい環境です。又、かかりつけ医で確保されている方もおられ、指導や助言を頂いております。</p>	
51	<p>〇看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携による訪看との連携をはじめ、母体施設、受診先医療機関の看護職との関係は良好で、ご入居者にあつた対応や指導、助言を頂きながらホームでの支援へ繋げています。</p>	
52	<p>〇早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>期間限定でホームへ復帰可能なシステムがあり、主治医、ご家族と検討の上対応しています。入院期間中の関わりも継続し病院関係者とも頻りに連携する様努めています。</p>	
53 (20)	<p>〇重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>指針を定め、ご利用時より意向を伺うとともに、その時毎の状況に合わせ主治医も含め、検討をし、再確認をさせて頂いています。</p>	
54	<p>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>出来る限り、穏やかで安楽な生活を送って頂ける様、環境整備を含め、予測できる事等、ご家族・主治医・看護職と随時検討、見直しを行いながら援助をと考えています。</p>	
55	<p>〇住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居前に、ご家族へ生活状況等報告するとともに、転居先がある場合、書面での情報提供、ケアカンファレンスへの参加、訪問協力等退居の状況に応じ、少しでもダメージとされない様な対応を心がけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	尊厳を大切にし、プライドを持って生活して頂ける様支援しています。プライバシーの保護や個人情報の取扱いは、入社時に契約書を記入し、接遇トレーニング等で、再確認できています。	
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定、自己選択がしやすくなる様な、又、思いや希望が自然に言ってもらえる様な環境を作る様心がけています。	
58	○ “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	お1人毎の好みに応じて家事や花の植替え、水遣り、家庭用品の組み立て・新聞の取り込み等、小さな活動でもできる力を発揮し、主役の場面が作られる様心がけています。	
59 (22)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人おひとりのその日の状態を職員が把握した上で、尚且つ、ご希望やペースに合わせ、安心してゆっくりと過ごして頂けるように心がけています。又、状況に応じて職員の業務調整を行っています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出前の、声かけをする時間を工夫する等し、心おきなく、ゆっくりと好みに合ったおしゃれが出来る様、又、お好み等伺いながら対応しています。ご家族にも協力を頂いて、衣替えや衣類の調節を行っています。ご家族と相談し、行きつけの理美容に行かれる様にしています。回数やパーマ、洗髪等、ご本人の意向に合わせる様心がけています。	
61 (23)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ参加される様、配慮しています。好みや量は、日頃の情報収集などで把握し、多種類の食材を使い、栄養バランスを考えた献立を立てています。又、季節や行事毎、慣わしの献立は積極的に取り入れ、誕生日には、その方の好みを中心とした祝膳や外食を、楽しまれる様心がけています。お一人おひとりの状態に合わせた献立、盛り付け、食器等の選択も工夫しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	<p>○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	○	喫煙のご希望があれば、安全に楽しんで頂ける様、検討を行って行くよう努めます。
63	<p>○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	お1人毎のペースで楽しんで頂ける様、お好みに応じた時間に入浴をして頂ける様配慮しています。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	お1人毎の睡眠パターンを把握し、体調を崩されない様、留意しながら、日中の過ごし方の工夫をしている。又、眠れない原因を把握する様努め、その時の過ごし方も、ご本人にとって苦痛にならない配慮をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お一人おひとりの生活歴を把握すると共に、興味のある事、出来る力を活かせる事等を日常生活より見だし、小さな活動でもよいので、お1人毎に活動場面を作られる様心がけています。		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族と相談しながら日常的な金銭管理されてる方もおられます。必要に応じお預かりする方の出納管理は、職員2名で確認し事故のない様努めています。		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物・散歩・併施設での合同行事参加、地域の方のボランティアによる交流会参加など、ご入居者のペースで行われています。花見など、天気の良い日のドライブ、又は外食の機会作りをしています。		
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別に尋ねたり、日々の会話の中から察したり、援助できる様努めています。又、ご希望の対応が難しい時には、ご家族や知人の方等の協力も頂いています。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、子機で自由に使用できる場所にあり、プライバシーを守れるよう居室で利用頂いています。遠距離のご家族への連絡を勧めたり、ご家族から頂く様声かけを行っています。		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は取り決めず、気軽に早朝やお仕事帰りに来られます。来居時はお茶等提供し、ゆっくりと過ごされる様心がけてます。他の方々との交流もして下さり、家庭的な雰囲気大切にしています。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	居室での宿泊も可能ですが、ゲストルームを準備しております。気軽にご利用頂ける様、寝具の用意や食事の提供もできるようにしています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	ご家族の来居時、ご入居者と生花や散歩といった小さな活動から年4回ご家族参加型の行事を企画し参加頂いてます。その際には情報交換等、ご家族同士交流を図られています。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	委員会活動・研修で全職員・知識を習得しており、特に自らの言葉・行動・態度に留意する様意識統一を図っています。やむをえない場合に備え、書式を準備し体制作りは行っています。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	精神的な苦痛や、その為に高まる危険性などを理解し、鍵をかけないケアをしています。外出傾向の強い方には、付き添ったり、見守ったり、場面を変えてみるなどしています。玄関のドアには、鳴子を取り付けるなど工夫をしています。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、職員の内の一人名は常に見守りの出来る位置で業務を行う様心がけています。居室内で過ごされることの多い方については定期的に様子を伺う様にしています。危険を察知した場合は速やかに、別の言葉に置きかえるなどして、さりげなく対応する様心がけています。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	共有スペースは現在のご入居の状況を把握した上で保管場所・方法をマニュアル化し実行しています。個別スペースは、その方の状況に応じ検討し、必要により介護計画に反映させてます。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアル・フローチャートの活用や定期的な研修を通し意識向上を図り、お1人毎に発生した事項を書式に残し、分析・検討を行い防止に努めています。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	今年度より年2回から年3回に定期訓練を増回し、緊急時、迅速に状況に合った手当や対応が出来る様、技術向上に努めています。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	報告書式・フローチャートにて分析検討を行っています。又、委員会活動を通し、他職種からの助言等も含め、改善策を検討、実践に活かしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の訓練の実施、対応マニュアルに添ったイメージトレーニングを行っています。台風等予測できる災害は、臨時ミーティングにて検討を行っています。地区の消防隊もあり協力のお願いは行っています。	○	火災等、未然に防ぐ為の体制作り(環境面の定期検査と個室の防災用品の利用のお願い等)
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	事故発生時は、大小関わらず報告する様に心がけています。又、頻度が増強する場合は、ご本人・ご家族と共に検討を行います。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	自らの体調変化を伝えられるか否かを把握し、バイタルの観察、生活の中でのサインには留意をし、早期発見に努めています。又、異変に気付いた際は、その日の勤務者と情報を交わし、管理者へすぐ報告します。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	内服処方時の説明書等を活用し、内容、副作用の把握に努め、適宜、処方医に相談、指導を受け適した内服になるよう心掛けています。内服後の変化には留意をし、必要に応じ早期にご家族、医師、薬剤師へ相談しています。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	適度な運動、十分な水分摂取、繊維質の多い物や乳製品等、食物にも、意識する様心掛けています。又、腹部マッサージ等もしています。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	お一人おひとりの状況や、出来る能力を把握し、ご本人の力を引出しながら声かけ、見守り、共に行う等、又、援助を要する方のお手伝いを、ご本人の気持ち等に留意しながら行っています。その際、適宜、能力に変化がないか、確認を定期的に行っています。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリーや塩分量等留意をし、食べる量や水分量は記録にて把握しています。お一人おひとりの状態、習慣等からその方に応じた形態でお出ししています。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、取り組んでいます。委員会活動にて次時期にむけて検討し見直し各事項毎研修があり意識強化になっています。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防・衛生、安全マニュアルを遂行し定期的に点検をします。食材の購入は1日毎行い、期限は一覧で書き出し掲示する等し、全職員で意識徹底しています。	○	特に生鮮食品は、賞味期限内であっても確認をした上で、使用するよう心がけてます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手作り表札・スロープ・植物類や、空間にベンチを置き団欒して頂く等親しみの湧く雰囲気作りに努めています。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	台所・リビングを中心に入居者様の居室があり、家事の匂いや、音が聞こえます。季節毎の生花、飾り物、冬期のこたつ、又、お風呂は檜風呂で、さりげなく五感に働きかける様な工夫に努めています。陽の光を感じられる様、お部屋の窓は障子を利用し、月明かりなど感じることができます。西陽の強い時はブラインドでコントロールしています。	○ 時には、子供や動物とふれあう機会を作るなども工夫している。
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関にはベンチを配置してあります。居間には、こたつとソファを用意してあります。お1人毎の好まれる場所が出来ており、思い思いに過ごされています。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室ごとにデザイン・備品を変え、お1人毎の生活空間作りを楽しめる工夫をしています。昔ながらの馴染みの物を持ち込み個性豊かな、御本人が一番心地よく過ごせる居場所となっています。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気は適宜行ない、強い臭いに対しては入居者に配慮しながら原因を探し、消臭など工夫するよう検討しています。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	ホーム内バリアフリーで滑りにくい床材・手摺の設置・浴室の工夫・3サイズの食卓セット等、安全面に配慮し、アクティビティで無理のない機能回復・維持に努めています。必要に応じ個別での対応も行っています。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の配置・ドア・居室内の作りに特性を活かし、昔風の時計や暦は見やすい物を使用し、状況に応じ安心できるさりげない対応に努めています。	○ 認知症による誤認・錯覚等から混乱や失敗を招かない様、周囲の状況に意識をしています。
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭にはデッキがあり、ご自由に季節毎の花の植替え、野菜作り等楽しまれています。ベンチ・いす等の利用、物干しの高さ等安全面に留意をし、活用頂いています。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらいと <input checked="" type="checkbox"/> ②家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ③たまに <input checked="" type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない